

第 30 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2021 年 9 月 10 日（金）午前 10 時から午前 11 時まで

場所：愛知県議会議事堂 5 階 大会議室

1 挨拶

大村知事：

本日は、第 30 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議にご出席をいただき、感謝する。

なお、会の名称を、これまで本部員会議としていたが、国も本部会議であるため、名前を統一し、本部会議とさせていただく。

8 月 27 日から 9 月 12 日までの 17 日間、緊急事態宣言による緊急事態措置により、感染防止対策の徹底をお願いしてきた。

このような状況の中、昨日、国において、首都圏、関西圏、東海 3 県を中心に、緊急事態宣言の延長が決定された。

今週の前半から半ばにかけて、西村担当大臣に、今は解除できる状況ではないということと、併せて緊急事態宣言の延長を要請することを電話で何度も連絡を取らせていただき、9 月 13 日から 9 月 30 日までの 18 日間の延長が決定された。これを受けて、県の緊急事態措置についても延長するというところで取り組んでいきたい。

この本部会議でご意見をいただいた後、正式に緊急事態措置を発出し、9 月 13 日から適用をする。

8 月 27 日から現在に至るまでに起きた事案について話す。

8 月 28 日、29 日に常滑の中部臨空都市空港島の愛知県国際展示場の多目的広場で行われた音楽フェスにおいて、8 月 12 日からフェス開催までに 4 回、オンラインやメール等で、酒類提供の自粛、人数要件の遵守、感染防止対策の徹底、密を避けること、マスクの着用・消毒などをきっちり行うようにと要請をし、これらを守るということで主催者のホームページ等にも載せていた。しかし、報道等もされているように、結果として守られず、酒の販売をしており、この音楽フェスティバル由来で、現時点で 30 人の陽性者が確認出来ている。そのうち 21 人は発熱により愛知県内の保健所経由で医療機関を受診して、陽性と確認された。

東京と大阪を含む県外では 5 人の方で確認された。

また、県と名古屋市の希望者には無料で PCR 検査キットを郵送で渡し、検査会社に送っていただいたが、申し込みが 1,154 人で、陽性者は昨日までに 4 人

であった。

私の感覚では、恥ずかしくて無料PCR検査キットを要請する方はいないと想定し、当初、県が100個、名古屋市が70個用意したが、結果としては、県への申し込みが545件、名古屋市に609件で、計1,154件であった。まだ検査結果が出ていないものもあり、もう少し増えると予想している。

いずれにしても、大変遺憾な事案であり、極めて無謀なことをされたと感じている。事実関係は、全てのメールのやり取りを公開したため、主催者の方が異を唱えることはないが、今後の教訓として同様な事案を起こさないため、第三者検証委員会を立ち上げ、事実関係の確認と記録を行い、再発防止に向けた今後の対応をしっかりと行っていきたい。

文化・芸術・アーティスト・音楽鑑賞においても、感染防止対策を徹底して、全員で乗り越えていきたい。

医療提供体制については、県医師会、県病院協会、各病院にご協力をいただき、新たに152床、うち重症病床13床を上積みしていただき、全体で1,722床+α、うち重症病床183床を確保する見込みが立った。関係の皆様には改めて感謝を申し上げる。

また、病床がひっ迫した際に、患者さんを一時的に受入れ、酸素投与等の必要な処置を行う入院待機ステーションを9月6日から愛知県武道館において開設した。ただ、今のところ利用者はいない。

先週の9月2日に、各医療機関に私の名前で、病棟を一つ空けて病床を確保してほしいという通知をさせていただいたところ、各医療機関の皆様が早急に対応をしていただき、今週になり順次確保されてきたことや、新規陽性者数も減少し入院患者も今週になって減少傾向に入ったこともあり、今のところ、入院待機ステーションは使わずに済んでいる。利用者がいない方が望ましく、引き続き状況は注視したい。

また、さらに新たな宿泊療養施設を確保していく。今、名古屋市内、三河安城、豊川市にあるが、来週、東三河の蒲郡市に開設をしたいと考えている。

ワクチン接種について、7か所の大規模接種会場は11月まで延長をする。

更に、若者のワクチン接種を進めるため、あいちワクチンステーション栄を9月11日から愛知芸術文化センターにて開設する。若者のワクチン接種を促進するインセンティブを付与するとともに、大学生と大学に、大学生への接種を進めてほしいことを通知した。調べたところ、愛知県内には4年制大学が52校、短大を入れると71校あり、まだ集団的な接種をしておらず、かつ希望がある大学を聞いたところ、4校が希望したため、早速、企業の職場接種でワクチンが余っているところに結び付けを行った。

高校生は希望者を募り、まとめて打っていただくということで進めており、9

月 12 日から一宮市民病院において、私立の大成高校と一宮市内の県立高校 3 校から始まっていく。また、9 月 13 日以降、蒲郡市や名古屋市など、各地区でそれぞれ公立・私立合わせて始まっていく。また、高校は公立私立とも県が責任をもってやるため、中学生についても、教育委員会が、中学生 3 年生の受験生を中心にどういう状況なのか、調査をしており、また、対応するように市町村にもお願いをしているところである。

一人でも多く、一日でも早くワクチン接種を受けていただけるように進めていき、オール愛知で乗り越えていきたい。よろしく願います。

2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

資料 1 がメッセージであり、これまでの経過を申し上げ、緊急事態宣言が 9 月 13 日から 9 月 30 日まで 18 日間延長することになり、感染防止対策の徹底をお願いするというメッセージを昨日付けで出させていただきました。

資料 2 が愛知県緊急事態措置である。期間を延長する。

あとの内容は一緒であり、5 ページを見ていただくと、イベントの開催制限等である。これまでもイベント事業者の皆様にはイベントでの感染防止対策の徹底をお願いしており、参加者の皆様にも、人との距離確保、マスク着用、大声での会話はしない、飲酒は控えるようお願いしていた。今回、改めて特に大規模なイベントを開催する際には、事業者の皆様には人数上限の遵守、エリア内の行動管理、酒の提供自粛などの適切な感染防止対策の徹底と、参加者には自覚を持って、感染防止対策を自ら徹底するようにお願いをする、ということをつけ加えさせていただきました。緊急事態措置の変更点は以上である。

資料 3 は、確保病床の増床についてであり、1,570 床を 1,722 床に本日付けで増床させていただきました。重症病床は 183 床である。それに伴い、裏面にある指標の基となる確保病床数を 1,722 床とし、入院患者のステージ I から IV の指標を見直しさせていただき、重症者についても見直しをさせていただきました。

参考資料 2 はワクチン接種状況であり、一番下に職域接種回数を加えたものがあり、1 回目接種を全部足して 470 万回である。12 歳以上の方の 70% 強である。職域接種は 62 万回よりもう少し多く打っていると感じるため、実際はこれより 2、3% は上だと思われる。全人口からすると、1 回目接種については、愛知県は 65% を越えていると思われる。

2 回目接種も、50% 台半ばまでは達しているが、2 回打った方が 70% を越えないとなかなか緩和が難しいと思うため、引き続きワクチン接種を加速していきたい。

ワクチン接種について、8月23日から、妊婦と夫には予約なしで大規模接種会場での接種を行ったところ、昨日までに5,233人の方が予約なしで来た。一番多かった日が949人で、昨日は96人であったため7会場で大いぶ落ち着いてきたが、引き続き、推奨していきたい。

参考資料3は、入院待機ステーションの開設についてである。

参考資料4は、明日からワクチン接種を栄の愛知芸術文化センターにて、1日550人規模で、LINEアプリを使用し予約していただき、接種を進めていく。ここでも、妊婦は予約なしで来ていただければ対応する。

参考資料5は、20代、30代のワクチン接種者を対象に1万円の食事券を抽選で2万人にプレゼントすることについてである。

参考資料6は、本日付けで教育委員会から県立学校に、ワクチン接種を進めてほしいという通知を出したことについてである。また、その際には、個人情報にはくれぐれも注意してもらおうということを併せて出させていただいた。

参考資料7は、大学に対する、感染防止対策の徹底のお願いについてである。また、これに併せて、ワクチン接種の希望者への支援についてもお願いした。

参考資料8は、新型コロナウイルス感染症対策予算の累計額であり、9月補正を更に今日追加をしていきたいと考えている。

引き続き、感染防止対策を全力で取り組むため、よろしくお願ひしたい。

(有識者・関係団体、政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

少し新規陽性患者数が減少傾向になったことは大変喜ばしく、この状況を継続していくためにも、緊急事態宣言延長は医療関係者にとっては大変ありがたい。ピークを超えてからこれまでの例を見ると、これからの2週間の患者数の増減、特に重症患者数の増減が大きな課題である。

これをどのように乗り切るかが、医療関係者にとっては、注力すべきであるが、特に今週に入って、重症者の増加を実感している。

データを見ると、ECMOが今朝の時点で愛知県下にて10台動いている。これは結構大きな負担になるが、そういう状態である。

病院協会がご尽力いただき、FRESH-AICHIという、医療関係機関の横の繋がり、個人情報はもちろん分からないが、どこの病院に、何人、どんな症状の患者が入っているかが把握できるシステムができた。7月の終わりから動いているが、名古屋市はコロナ患者がいる病院は100%が参加していただいております。尾張地区、三河地区は大体約7割の参加だが、今朝のデータを見ると、届出病床は約70%の使用、即応病床は91%の使用で、患者数が増えるに従って即

応病床数も伸びており、届出病床は県と医療関係者の協力で確実に増えてきている。

尾張地区は、即応病床も届出病床も、現在約73%の状況である。

三河地区は、即応病床が79%、届出病床が77%で、このまま患者数が減っていけば愛知県は大きな医療崩壊を起こさず済むため、乗り切れるのではと考えている。医療関係者の皆様については、これからの2週間を十分注意をして、特に重症患者さんへのしっかりとした対応をお願いしたい。

予断を許さない状況であるため、引き続き、関係各所の皆様方には、ご協力をお願いしたい。

大村知事：

引き続きよろしくをお願いしたい。

愛知県医師会 柵木会長：

今回、緊急事態宣言が9月末までの延長となった。考えてみれば、第5波は東京、大阪に次いで東海地方が最後ということで、収束も東海地方が最後で、愛知県については新規感染者がまだ1,000人を切ることなく、下げ止まりという状態が続いており、いつ1,000人を切るかが関心事項である。

しかし、今後入院患者が増えて、特に重症患者が増えていき、注意が必要であるため、まだ緊急事態宣言を解除するには早いと考えている。病床のクリティカル数、つまり超えたら危険と言われている数が、病床確保会議等で話していると、1,200床である。これを超えると危機的な状況となり病院を名指しして病床転換をお願いしなければならないが、超えるかどうかは微妙である。

沖縄が5月23日に緊急事態宣言が出て解除できない状態が非常に長く続いているところだが、これに比べると、愛知県は、急性期病院の確保病床への転換率の割合が少なく、例えば、今の沖縄県と比べると、約40%しかない。東京や大阪に比べても60%から50%程度であり、まだ愛知県の病床拡大の余地はある。

しかし、ここ数日間の病床の動向を見ると、少しピークを超えており、現場の話聞いても若者が比較的多く病床の回転が速く、従来とはちょっと違った傾向になる可能性もあると思っている。

今週の月曜日には、知事に、即断即決で入院待機ステーションを開設していただいたが、今日に至るまで、幸いなことに利用者はいないとのことである。

しかし、いざという時の安全弁であるため、今の状況を考えると稼動しない方がいいが、今後のために備えていく。

他府県の事例を参考に、できることはすべてやることが重要である。今、政府からも、入院待機ステーションも含めて、臨時医療施設を開設するように指示が出ている。施設を作るのは簡単だが、医師や看護師の手当が難しく、ここで皆が苦勞をしている。発熱外来、感染者の治療、ワクチン接種、あらゆる局面で、医療従事者が必要である。限られた人数で、マンパワーをどこに配置するかが今問われており、知恵を絞る必要がある。

医療界の総力戦と思っており、全力を挙げて取り組んでいく。

大村知事：

柵木先生にご助言いただいた入院待機ステーションについては、先週の金曜日で武道館の利用を止めて、金曜日から日曜日で整備をして、月曜日からスタートした。今週になってから各病院の病床を転換していただいたことと、今週になり入院患者が減り出したことの、両方の理由で今のところは入院待機ステーションを利用しなくていい状況だが、今後、長期間マンパワーを置いておくわけにはいかず、状況をよく見る必要がある。武道館の入口を入院待機ステーション仕様にしたため、すぐ武道館の利用再開をするのは難しく、しばらくはいつでも使えるような形で、確保していきたい。

新規陽性者数がまだ1,000人を超えている状況であり、まだ安心できず、今後2週間が本当に大事な期間であるため、しっかりと対策を行い、新規感染者数を落とし切り、今月末で緊急事態宣言の解除としたい。

愛知県病院協会 細井副会長：

病院などの現場の声としては、まだまだ非常にひっ迫しており、自宅療養者の症状の悪化や、発熱で多くの患者が来院した場合、本当に混雑している時には一般の救急医療にも影響している状況が、少なくとも数日前までは続いていた。症状が悪化して入院を希望しても、現実的には病床がないことや、保健所に多大な負担を強いている状況が続いていると現場では感じている。

また、当院も当てはまるが、例えば、中等症まで診るような役割の病院で診ている方が重症化した場合、今でも、他病院で重症化した方を受入れる病床の確保が難しく、自院でそのまま重症患者を診なければいけない場合がある。当院では、そういった方を気管切開して、少人数で診る状況が続いており、現場の声としても、これからの約2週間が重要な時期であると感じている。

愛知県病院協会では、F L E S H - A I C H I という、様々な患者の情報を含めて病床の運用状態の情報を共有して、円滑な運用を目指すための取組を行っている。名古屋市は登録数100%で運用しており、ぜひ行政でも活用いただき、本当に円滑な病床運用ができればと考えている。

また、病床の確保については予断を許さない状況が続いており、病院によっては、確保病床として病棟を作ることが動線の関係で難しいところもあるため、そういう時には、既存のコロナ病棟内に1床でも2床でも追加して、少しでも受入病床を増やすことを、会員病院に伝えたいと考えている。

最近では若年層からの家庭内感染が広がっており、医療スタッフにも非常に影響をしている。濃厚接触者で自宅待機になる方がいることや、ワクチン接種をして症状が出ない方が院内に来ることがあり、院内感染やクラスターを防ぐため、各病院は注意している。

これからの2週間は非常に大事であるため、病院協会、会員一丸となり取り組む。

大村知事：

今回、増床していただいたことに、心から御礼申し上げたい。また引き続き大変な状況ではあるが、よろしく願い申し上げます。

名古屋商工会議所 内田専務理事：

医療提供体制の維持に全力を尽くしていただいている医療従事者を始め、愛知県などの関係機関の皆様へ感謝を申し上げます。

緊急事態宣言の延長については、病床使用率、重症者数は依然高い水準にあり、やむを得ないが、今回の延長で終止符を打ってほしい。

直近の課題は、感染の抑制と併せて、自宅療養者が安心して治療に専念できるよう、十分な医療提供体制の整備を引き続きよろしくお願いしたい。

名古屋商工会議所の直近の当地域の景況調査でも、2期連続で改善しているものの、仕入れ単価の上昇や、資金繰りが回復しないことから、依然厳しい状況が続いているのが現状である。

度重なる経済活動の抑制により、飲食、宿泊、イベント、観光業などの事業者は、すでに体力の限界に達している。手元資金が減少していても、返済の目途が立たないことから融資に躊躇する事業者も非常に多く、この先、倒産や廃業が急増するのではないかと危惧している。

ワクチン接種の進捗状況に応じた行動制限の緩和を含めて、経済回復に向けて目指すべき道筋をしっかりと示していただいた上で、困窮する事業者への迅速な切れ目のない支援はもとより、収束後の経済回復を確かなものとするための追加支援策を是非お願いしたい。

商工会議所としても、引き続き会員企業などに、休暇取得やテレワークの徹底で、出勤者の抑制に努めていただくよう呼びかける。

若年層を中心とした世代へのワクチンの有効性や安全性の周知や、ワクチン接種の早期実施を着実に実行していただくとともに、県民への感染拡大防止に向けた自覚ある行動の呼びかけを、今一度徹底していただきたい。

大村知事：

経済状況等について、きめ細かく情報共有させていただきたい。また、ワクチン接種についても、会員企業の方々が職場接種を含めて取り組んでいただいたことに感謝を申し上げる。

若年層へのワクチン接種を広めることが重要であるため、たくさんの方で行っていく。明日、愛知芸術文化センターであいちワクチンステーション栄がオープンすることも含めて、若い人への呼びかけのメッセージ動画も明日から配信する。

今後ともよろしくお願ひしたい。

中部経済連合会 小川専務理事：

医療保健関係の皆様へ感謝を申し上げるとともに、さらに緊張感や高度な負担が続くが、是非ともよろしくお願ひ申し上げたい。

延長については、やむを得ないと考える。経済界として、時差出勤やテレワークをしっかりとやっていきたいと考えており、また、飲食、宿泊、納入業者等への手厚い補助を、引き続きよろしくお願ひ申し上げる。

政府から昨日、行動制限の緩和の案が出た。経済界としては、大変ありがたく賛成しているが、前提をしっかりと作っていくことが必要である。若い方を中心としたワクチン接種をしっかりとやっていくことと、全ての症状に対する対策がしっかりとできていることが大切である。

行動制限の緩和はありがたいが、また緩和と強化が何度も短期間に頻繁に繰り返されることは決して望ましいことではない。その観点からも、緩和のタイミング、内容、程度について、医療関係の皆様への専門的な観点からの意見をいただきながら、国への要望をしていきたい。

引き続き、皆様と協力をしながら進めさせていただきたい。

大村知事：

会員企業も含めて、職域接種を進めていただき感謝する。県内では、申請は290か所の企業・団体・大学だが、今週の実施は230か所と確認した。

接種回数は1回目、2回目を足すと約110万回までできており、引き続きよろしくお願ひ申し上げる。

行動制限の緩和の案について、昨日、記者会見で感想を聞かれたため、前のめりではないかと申し上げた。現政権が9月で退陣するため、退陣までに道筋をつけたいのではと推察するが、緊急事態宣言を延長する時に合わせることに疑問を感じると申し上げた。愛知県としても、緊急事態宣言中に、そのような話にはならないため、まずは感染者を落とし切りたい。

一方で、ワクチン接種が大分進んだため、数か月後を睨んで出口戦略も考えていく必要があるため、頭の中のシミュレーションを行っていく。

今後、順次、行動制限の緩和となるのではと思うが、例えば、プロ野球やサッカーなどの広い空間において、ワクチンの接種証明のようなものがあれば、人数を、今5,000人としているが、少し増やしてもいいと考えている。

ただ、飲食店での酒類の提供は、徐々に行っていく。

一度に全てを緩和とはいかず、頭の中でシミュレーションしながら対応していきたいと考えている。関係者とよく相談をしていきたい。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

関係の皆様のご努力に感謝を申し上げる。感染者が少し減少傾向だが、非常に厳しい事態には変わりがなく、緊急事態宣言の延長はやむを得ないと思う。

また、特に今後2週間においては、できることを徹底していきたいと思っている。

働き方については、リモートワーク、テレワーク、オンライン等様々であるが、現在は、緊急的・臨時的な一過性の取組となっているため、しっかりと定着をしていくようにしたい。

既に愛知県で様々なサポート制度や相談窓口も設けているため、協力しながら取組んでいきたい。

大村知事：

引き続き、テレワーク等の推進をよろしくお願ひしたい。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 中島副事務局長：

医療関係従事者、保健所、自治体の皆様に敬意と感謝を改めて申し上げるとともに、長期間にわたり負担がかかり続けているため、負担軽減に向けた支援策や、メンタルヘルスを含めた現場労働者のケアも併せてお願ひしたい。

緊急事態措置の延長については、現状を踏まえれば、やむを得ないものと受け止めている。

これまでホームページ内での情報交換や、組織内に対するワクチン接種の呼びかけなどに努めてきた。今後2週間が大事であるため、改めて気を引き締め、一丸となって乗り越えていきたい。

ワクチン接種の拡充については、スピーディーに対応していただき、改めて感謝を申し上げます。ワクチン接種を希望する方には、中年層から、若年層までまだたくさんおられるため、引き続きの接種体制の拡充にご尽力いただきたい。

大村知事：

引き続き、ワクチン接種の働きかけについて、特に組合員の方で若い方が比較的多いと思うため、よろしくお願ひしたい。一方で、強制になってはいけないため、バランスを見ながら、職場ごとでの対応をよろしくお願ひしたい。

愛知県市長会 相津事務局長：

ワクチン対象年齢人口の8割を超える供給日程が示されており、接種が加速している中、国からは、10月から11月にかけて希望者全員へのワクチン接種が完了する日程も明らかにされている。そうした中で、まずはワクチン接種の着実な推進が重要である。

同時に、今後の展望をする中で、一定の条件のもとでの行動制限緩和についての検討や議論、3回目のワクチン接種の日程案についての検討も始まると予想できる。

また、ワクチン接種について、対象人口の約70%が当面の目標とのことであるが、例えば90%程度まで接種率を高めるとした場合には、どのような工夫が考えられるのかについても、基礎自治体としての果たすべき役割もあるため、関係機関と連携して取り組んでいきたい。

まだまだ流動的な面が多いが、出来ることをしっかりと取組みたい。

大村知事：

9月27日からの配分案も示させていただき、すべての市町村でワクチン切れがないように、私どもは調整をしていく。引き続き、ワクチン接種の加速についてよろしくお願ひしたい。

また、ワクチン接種について、高校生は公立・私立とも県で責任を持って対応するが、併せて、中学生の接種状況を県教育委員会から各市町村教育委員会へ問い合わせをしており、今日までの回答をお願ひしている。特に中学校3年生の接種希望者には優先的な接種が大事であるため、よろしくお願ひしたい。

なお、高校生への接種について、ワクチンの追加供給を希望される医療機関があったため、14クール、15クルールのワクチンで希望のとおり配分供給させていただいた。引き続き調整していくため、よろしくお願ひしたい。

愛知県町村会 宇佐見事務局長：

全国町村会からも、国に対して、新型コロナウイルスの急拡大に伴う緊急要請を8日に行った。ホームページでも見ていただけるが、医療提供体制の整備等の6項目の中にワクチンの接種促進が入っており、希望する量の確実な供給、スケジュール、配分量等を明確に示していただくこと、ワクチンの効果や必要性、副反応等の正確な情報を若い世代を始め、全国民にわかりやすく周知してほしいという要望を出している。

差別や同調圧力があってはいけませんが、ワクチン接種を進めていくことが重要だと思っている。愛知県ではワクチンステーション栄や、高校生と医療機関とのマッチング、インセンティブの付与など、様々な切り口での若者に対するワクチン接種策が進んでいる。

次は中学生のワクチン接種であるため、しっかりと取り組みたい。

愛知大学が職場接種を行う中で、地域連携というニュースが出ていた。地域連携協定に基づいて、愛知大学で地域の方も接種できるようにし、さらに学生の方がボランティアとしてサポートしている。名古屋市教育委員会との連携だと聞いたが、同じく愛知大学は、名古屋市立高校の高校生についても、愛知大学の職域接種の枠を提供して接種を行っている。

このように、地域連携が新型コロナウイルス感染症の中で進んでいくと、今後の大規模災害の時にも非常に有効であるため、こういったことも、今後取り組めるように考えていきたい。

大村知事：

地域連携は重要であるため、よろしくお願ひしたい。

ワクチン接種の、特に中学生への接種について、よろしくお願ひしたい。

名古屋市保健所 医監：

昨日の時点で、10万人当たりの1週間合計が170人であり、前週比としては0.81で少し減少傾向にあるが、まだ陽性者数が非常に高い状況が続いている。保健所の業務もまだまだ厳しい状況が続いているという現状である。

年代別では、この1週間は20代の感染者が減少傾向で、明るい傾向ではあるが、一方で10歳以下の増加が目立ち、約1.2倍に増加している。今後は恐

らく、小児の感染者数が増えるため、小児領域の医療の充実についても考えていく必要がある。

入院状況については、ワクチン接種の効果もあり高齢者は非常に少ないが、ここ1週間で、重症で入院されている高齢者が、少しずつ増加しているという状況があるため、この先まだ病床のひっ迫が続くと思う。

大村知事：

東京は、お盆明けから保健所の業務がひっ迫し、今後濃厚接触者を追わず、健康観察に注力するというので、検査については必要な数ができていない。

名古屋市が一番大変だと承知しているが、現在、濃厚接触者については全員追いかけている状況か。

名古屋市保健所 医監：

B C Pを発動して、区役所からも沢山の応援をいただいている。

疫学調査については、効率化を図る必要があるが、濃厚接触者は、必要に応じて保健センターに来て検査を行うことや、地域の医療機関にも協力をいただいで検査するなど、検査については必要な数を行うようにしている。

大村知事：

大変な現場だと思うが、ご努力いただき感謝申し上げます。

また、入院調整について、先週は大変であったと思うが、今週は入院患者が若干減っているが、どのような状況か。

名古屋市保健所 医監：

先週は本当に厳しかったが、今週に入り、いくつかの病院で病床を増やしていただいたこともあり、少し入院調整ができるようになった。

また、病院協会の病床共有システムも非常に役に立っており、どこの病院で何床が空いているかが即時に分かるため、それを活用して調整をさせていただいている。

また、今週は救急車の出動も少し減っている。準夜帯は救急車の要請が多くあるが、それも対策本部に依頼がある数は、数としてまとめてはいないが、体感的には、少し減っている。

大村知事：

また引き続き大変な状況が続くが、よろしく願います。

豊橋市保健所長：

8月中旬から急増した新規患者数について、8月26日にピークを迎え、その後は減少傾向にある。数としては、第4波のピーク時よりもかなり高い値となっており、直近7日間の新規患者数は人口10万当たり80人という状況で、保健所体制としては一時期ひどい状況であったが、他部局からの応援もいただき、何とかが対応できている。

年代としては、若年層が中心で高齢者の割合が低いが、ワクチンの2回目接種が済んでいる方の発病も見られている状況である。10歳未満の割合について、第4波とあまり変わらない割合であるが、患者数としては増加しており、学校や幼稚園等での患者発生の事例も多くなっている。昨日、保育施設にて子供が約15人発生したため、クラスターとして発表させていただいた。

ワクチン接種について、1回目接種が60%を超え、県からも、全体の80%を接種できる供給量が示されたが、職域接種の状況がよく分からず、今後の接種スケジュールが立てにくい状況である。

今までも個別接種を中心に接種を推進していたが、一旦は中止をしていた個別接種の新規予約を9月に再開し、接種医療機関や医師会との調整にも苦慮している。

接種実績に合わせて、さらなるワクチン供給が必要な場合には、必ず供給していただきたいため、よろしくお願ひしたい。

大村知事：

ワクチン供給については、不足しないようしっかりと確保して、調整していく。入院調整はスムーズに行えているか。

豊橋市保健所長：

満床に近い状況ではあるが、入院できないという状況ではなく、なんとか対応できているという状況である。

大村知事：

来週には蒲郡にホテルを確保するため、宿泊療養の方は、現在は豊川が満室になると三河安城まで行ってもらっているが、近くで対応できるようになる。今後ともよろしくお願ひしたい。

岡崎市保健所長：

7月下旬から新規感染者数が増加傾向となり、9月1日には、1日当たりの新規感染者数が120人で過去最大となっている。

8月27日の緊急事態宣言の発出以降、9月1日をピークに少しずつ新規感染者数は減少してきている。ワクチン接種が進んだ結果、7月10日から9月9日の新規感染者のうち高齢者が占める割合は65歳以上が4.2%で明らかに低下をしてきており、現在は20代と30代が1位、2位を占めている。10歳未満は256人で50代よりも多くなってきており、変異株の影響が表れている。9月に入り、9月1日から9月9日までの、感染者の状況は、日本人が438人だが、ブラジル、フィリピン、ベトナム等の外国籍の方が約14%を占めており増加傾向にあるという状況で、少し心配している。

65歳以上の新規感染者のうちワクチン接種の状況について、9月では、接種なしが12人であり、一方で、2回目接種者も13人であり、感染を完全に防ぐ力はないと考えている。

患者数は第4波を超えているが、死亡者について、第4波では14人であったが、現在3人に留まっており、これも高齢者が減ってきたこともあるかと思うが、死亡者が減ってきている印象がある。

療養状況について、9月初めのピーク時には、883人の患者のうち入院が81人、宿泊療養施設が32人に対し、自宅療養者が663人に達していた。また、自宅待機者も100人を超えていた。

現在では自宅待機と自宅療養者を合わせて約100人を超えており、まだ病床の状況としては、余裕がない状況である。

第5波で検査をした251検体のうち、90%以上がL452R変異株であり、変異株の感染速度が速いことと、重症化しやすい特徴があると思う。

クラスターは、第5波に入り4件発生しているが、最近は保育園、小学校でクラスターが発生しており、若年者に、感染が広がっていると感じている。

ワクチン接種について、今月下旬に、12歳から15歳の方への接種券を発送する予定であり、これで全対象者に接種券が配布されることになる。それに先立ち、12歳から15歳の方で基礎疾患がある方の接種を開始しており、これからも速やかなワクチン接種に努めていきたい。

引き続き、皆様にはご理解とご協力をよろしくお願いしたい。

大村知事：

県の大規模接種会場は、岡崎市に2か所もあるため、協力してしっかりと進めていきたい。入院調整については、今のところはできているか。

岡崎市保健所長：

ぎりぎりのところでできている。

大村知事：

今後ともよろしくお願ひしたい。

一宮市保健所長：

4月1日以降の9月8日までの新規陽性者数は2,884人で、愛知県一宮保健所時代の1,075人の3倍近くになっている。7月の終わりから感染者数が急増し、8月12日週が258人、19日週が332人、26日週が459人、9月2日週が574人であり、1日に最大約110人の新規陽性者数であった日もある。

一宮市保健所は中核市となったばかりであり、市役所全体で応援体制をとり保健所内でも様々な課へ応援をお願いしているが、それでも人数が足りないため、保健所が属している市民健康部内や福祉部の保健師にも疫学調査等に入ってもらっている。さらに、9月から土日・祝日にも他部局の職員からの応援や、一宮市医師会、市内の医療機関のご協力をいただき対応している。

入院状況について、9月8日時点の一宮市民の入院状況は74人で、第4波の72人を超えて過去最多である。市内の病院には、県の調整で市外から入院されている方もおり、市内の医療機関はほぼ満床に近い状態である。

入院調整については、毎週月曜日に、医師会を始め市内の医療機関と保健所の担当専任課長がZ o o mで連絡会議を行い、なんとか調整できている。

大村知事：

今後、一宮市民病院で高校生の集団ワクチン接種が始まる。引き続きよろしくお願ひしたい。

豊田市保健所 専門監：

お盆を境に急激に増加した患者数は少し落ち着いてきたが、直近1週間の新規陽性者数は、人口10万人当たり70人である。一番多かった時が150人であったため、それに比べると半減しているが、引き続き高い水準で推移している。7月21日からの第5波の陽性者数は、昨日までの発表分で2,091件となっており、現在までの全陽性者数の約45%が第5波で発生している。

男女別陽性者の割合について、男性は6割、女性は4割である。年代については10代から40代が全体の80%で、特に20代と30代が多く、現在も50%程度である。

感染経路については、不明が多いが、同居者から感染することが引き続きとても多い印象である。

感染者の増加に伴い、在宅療養者も一時は約600人から現在は約400人となっているが、引き続き健康観察業務も非常に大変な状況である。患者の状況に

応じて在宅診療を実施しており、在宅療養者支援の充実と、重症化予防のための体制を整えた。

ワクチン接種については、昨日までに1回目の接種を行った人が約22万人で、まだVRSへ完全に入力できていないが、対象者の6割を超えている。若い世代の接種率が低いため、教育委員会や商工会議所と連携して周知を強化している。引き続き、医療機関での個別接種や県で実施していただく大規模接種と併せて、接種率の向上に努めたい。

大村知事：

入院調整はいかがか。

豊田市保健所 専門監：

ほぼ満床である。

大村知事：

まだ、全く入れないことはないという認識でよいか。

豊田市保健所 専門監：

これ以上増えると厳しい。在宅診療も進んでいるため、併せて行っていく。

大村知事：

貴重なご意見や御提言をいただき感謝する。厳しい状況であることには変わりはないと思っている。

入院患者が1,200人を超えることを覚悟していたが、今のところは至らず、今週になって減少傾向であり、どちらかという運がよかったと感じている。

引き続き緊張感を持って対応していきたい。少し減少傾向ではあるが、まだ1,000人の入院患者がいるため、引き続き医療機関の皆様には、この即応体制をしっかりとお願いをしたい。

医療体制をしっかりと確保していく中で、ワクチン接種をさらに加速をして、この新型コロナウイルス感染症を県民、事業者の皆様と一緒に共に克服していきたい、抑え込みたい。

愛知県緊急事態措置の延長等については、この後正式に発出をさせていただく。

今からの2週間が一番大事な時期である。ここで感染防止対策をしっかりと行い、新規感染者を減らしていき、月末までには、緊急事態宣言を解除したいと考えているため、よろしくお願ひしたい。